

## 8.10 植 物

---

## 8.10 植物

---

### 8.10.1 調査

---

#### (1) 調査項目

##### 1) 既存資料調査

既存資料調査の調査項目は、以下に示すとおりである。

- ・植物相：事業実施区域及びその周囲における貴重・希少植物及び植物群落の確認状況
- ・植生：事業実施区域及びその周囲における植生の状況

##### 2) 現地調査

植物調査の現地調査項目は、以下に示すとおりである。

- ・生育種及び植物相の特徴
- ・植生の状況
- ・重要な種及び重要な群落の状況

#### (2) 調査方法

##### 1) 既存資料調査

事業実施区域及びその周囲における植生の状況及び貴重・希少生物の確認状況を、「平成25年度 自然環境調査（植生）報告書」（平成26年3月 福岡市環境局）及び「福岡市環境配慮指針（改定版）」（平成28年9月 福岡市環境局）の情報をを用いて整理及び解析した。

##### 2) 現地調査

###### a) 生育種及び植物相の特徴

調査地域を踏査し、調査地域内に生育する植物の出現種を記録した。

###### b) 植生の状況

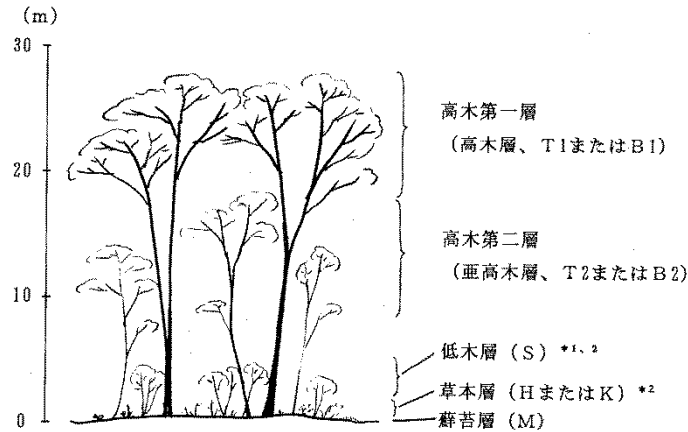
植物社会学に準拠した方法により植物群落の区分を行った。

調査地域内に成立している植物群落を確認しながら踏査し、均質で代表的な植分を選んで調査地点を設定した(表 8.10-1、図 8.10-3)。植分の広がりに応じてコードラート調査枠を設定し、調査票に必要事項を記入したのち、図 8.10-1 に示す階層ごとに出現種のリストを作成した上で、階層ごとかつ種ごとにブラウーン-ブランケ

(Braun-Blanquet) の全推定法に従って、被度と個体数を組み合わせた階級である優占度を測定した。また同時に種ごとの生育状況（個体の集合・離散の状態）を判

定する指標の群度を測定した。

以上の方法により、合計 29 地点で植物群落調査を実施し、群落組成表を作成して群落を区分した。また、群落区分と現地での植生境界区分、空中写真判読と合わせて現存植生図を作成した。



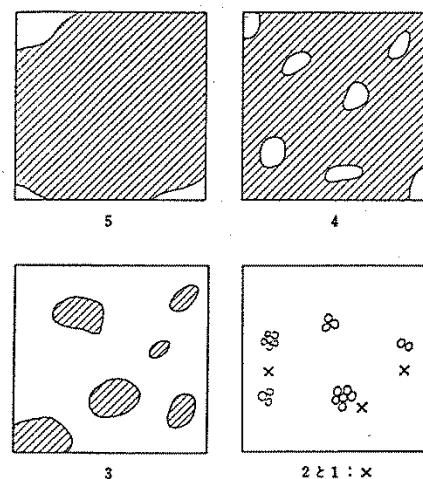
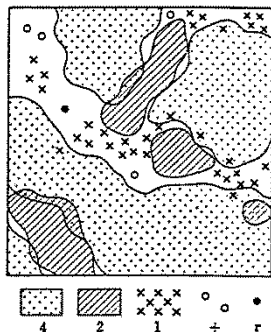
\*1: 低木層は通常 4 m 程度の高さまで  
 \*2: 低木層、草本層がさらに分化している場合、  
 低木第一層、低木第二層のように記述。

出典:「自然環境アセスメント技術マニュアル」(1995 年 9 月 自然環境アセスメント研究会 編)

図 8.10-1 階層の判断基準

- 5: 被度が調査面積の 3/4 以上 を占めている。  
 個体数は任意。
- 4: 被度が調査面積の 1/2 ~ 3/4 を占めている。  
 個体数は任意。
- 3: 被度が調査面積の 1/4 ~ 1/2 を占めている。  
 個体数は任意。
- 2: きわめて個体数が多いか、また少なくとも調査面積の 1/10 ~ 1/4 を占めている。
- 1: 個体数が多いが被度は 1/20 以下、あるいは散生するが被度は 1/10 以下。
- +: きわめて低い被度 (1/100 以下) で、わずかな個体数。
- r: きわめてまれに最小被度で出現する。

- 5: ある植物が、調査区内に、カーペット状に一面に生育している。
- 4: 大きな斑紋状。カーペットのあちこちに穴があいているような状態。
- 3: 小群の斑紋状
- 2: 小群状
- 1: 単生



優占度 (被度) の判定

群度の判定

出典:「自然環境アセスメント技術マニュアル」(1995 年 9 月 自然環境アセスメント研究会 編)

図 8.10-2 優占度・群度の判定基準

表 8.10-1 植生調査(コドラート調査)地点とその選定理由

地点 番号	群落名	選定理由
1	ハマサジ群落	塩性湿地植物であるハマサジが優占する植生である。
2	ヨシ群落	塩性湿地植物であるヨシが優占する抽水性の群落
3	ヨシ群落	塩生湿性植物であるヨシが優先し、水際より地盤が高いところに生育している植生
4	ウラギク群落	塩生湿地植物であるウラギクが優占する植生である
5	ハマツナ群落	塩生湿地植物であるハマツナが優占する植生である
6	シオクグ群落	塩生湿地植物であるシオクグが優占する植生である
7	チガヤ-ススキ群落	チガヤ、ススキが優占する植生である
8	イソホウキギ群落	塩生湿地植物であるイソホウキギが優占する植生である
9	アイアシ群落	アイアシが優占する植生である
10	芝地	メリケンカルカヤやチガヤが混じるシバ属が優占する植生である
11	路傍・空地雑草群落	ギョウギシバやアレチヌスビトハギが混じるメヒシバ優占の植生である
12	路傍・空地雑草群落	ホソバツルノゲイトウが混じるメヒシバ優占の植生である
13	グラウンド	グラウンドに生育するギョウギシバが優占する植生である
14	芝地	シバが優占する植生である
15	クロマツ群落	クロマツが優占する樹林にハマスゲ等の草本が生育する植生である
16	植栽樹群地	高木層としてクスノキ、亜高木層としてホウライチク、低木層としてヤダケ、草本層としてノハカタカラクサが優占する植生である
17	植栽樹群地	高木層としてクロマツ、亜高木層としてエノキ、低木層としてマサキ、草本層としてエノキが優占する植生である
18	植栽樹群地	高木層はクスノキ、亜高木層～草本層はイスノキが優占する植生である
19	植栽樹群地	高木層、低木層はムクノキ、草本層はシバが優占する植生であり、公園の様相を呈している代表植生である
20	クズ群落	クズが優占する植生である
21	マダケ林	マダケが優占する植生である
22	ハリエンジュ群落	亜高木層はハリエンジュ、低木層はハリエンジュ、草本層はスイカズラが優占する植生である
23	メダケ群落	メダケが優占する植生である
24	トキワススキ群落	トキワススキが優占する植生である
25	畑地雑草群落	ニワホコリが優占する植生である
26	畑地雑草群落	トウグワ(マグワ)が優占する植生である
27	クロマツ群落	高木層はクロマツ、低木層はクロガネモチ、草本層はチガヤが優占する植生である
28	植栽樹群	高木層はモミジバフウ、草本層はクサイが優占する公園植生である
29	クロマツ群落	当該地区の自然に近い二次林であり、保全樹林として選定している

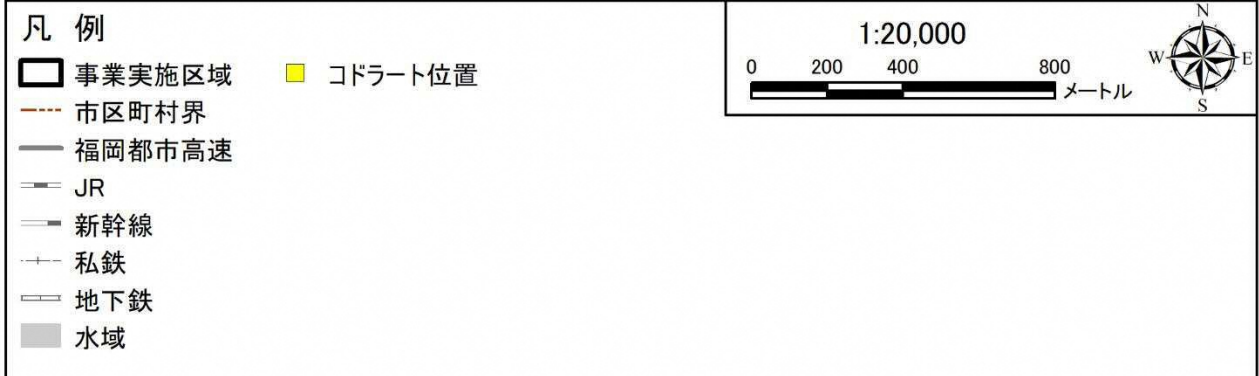
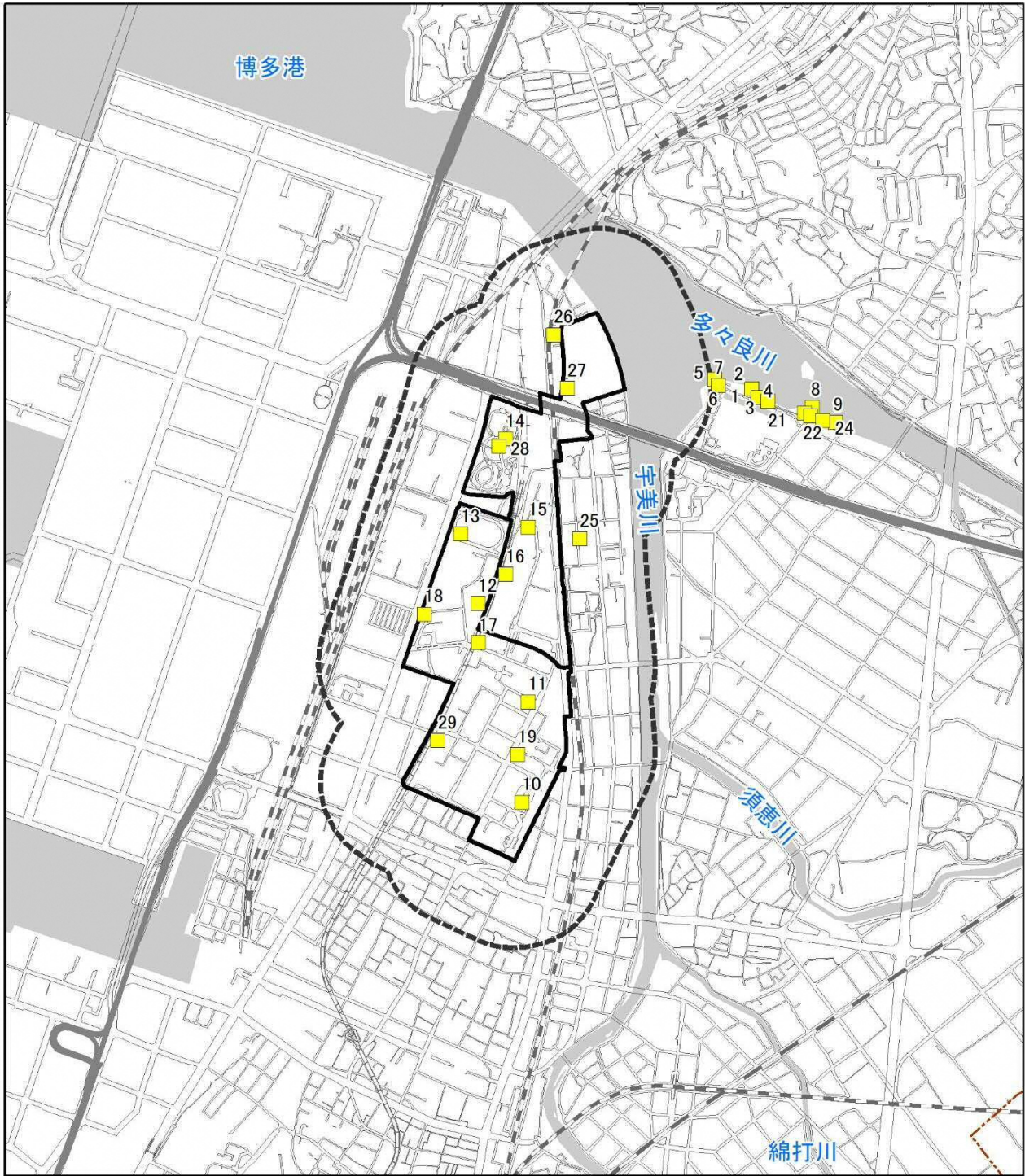


図 8.10-3 植生調査位置図

c) 重要な種及び重要な群落の状況

上記調査中に、表 8.10-2 に示す重要な種や群落等が見つかった場合、種名及び確認地点を記録し、重要な種及び群落の状況を把握した。

表 8.10-2 重要な種及び重要な群落等の選定根拠

選定根拠			カテゴリー	
区分	略	名称	記号	区分
重要な種	文化財	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)	特	特別天然記念物指定種
			天	天然記念物指定種
	種保存	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 法律第 75 号)	国内	国内希少野生動植物種
			国際	国際希少野生動植物種
			緊急	緊急指定種
	環境省	「レッドリスト 2018」(平成 30 年 5 月 環境省)	EX	絶滅
			EW	野生絶滅
			CR	絶滅危惧 I A 類
			EN	絶滅危惧 I B 類
			VU	絶滅危惧 II 類
			NT	準絶滅危惧
			DD	情報不足
			LP	絶滅のおそれのある地域個体群
	福岡県	「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011-植物群落・植物・哺乳類・鳥類-」(平成 23 年 11 月 福岡県)	EX	絶滅
			EW	野生絶滅
			CR	絶滅危惧 I A 類
			EN	絶滅危惧 I B 類
			VU	絶滅危惧 II 類
			NT	準絶滅危惧
			DD	情報不足
LP			絶滅のおそれのある地域個体群	
福岡市	「福岡市環境配慮指針(改定版)」(平成 28 年 9 月 福岡市)	掲載種	市内の貴重・希少生物種等のリスト掲載種	
重要な群落	文化財	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)	特天	特別天然記念物指定群落
			天	天然記念物指定群落
	自然環境保全基礎調査	「第 2 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(環境庁 1979 年)及び「第 3 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書(追加・追跡調査)」(環境庁 1988 年)	特定	特定植物群落
福岡県	「福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011-植物群落・植物・哺乳類・鳥類-」(平成 23 年 11 月 福岡県)	希少	希少な植物群落	

### (3) 調査地域・調査期日等

調査地域は、計画地の周辺 250m の範囲を基本としたが、立ち入りができない場所（住宅地内、東部水処理センター敷地内、工場・社有地内等）は踏査を除外した。

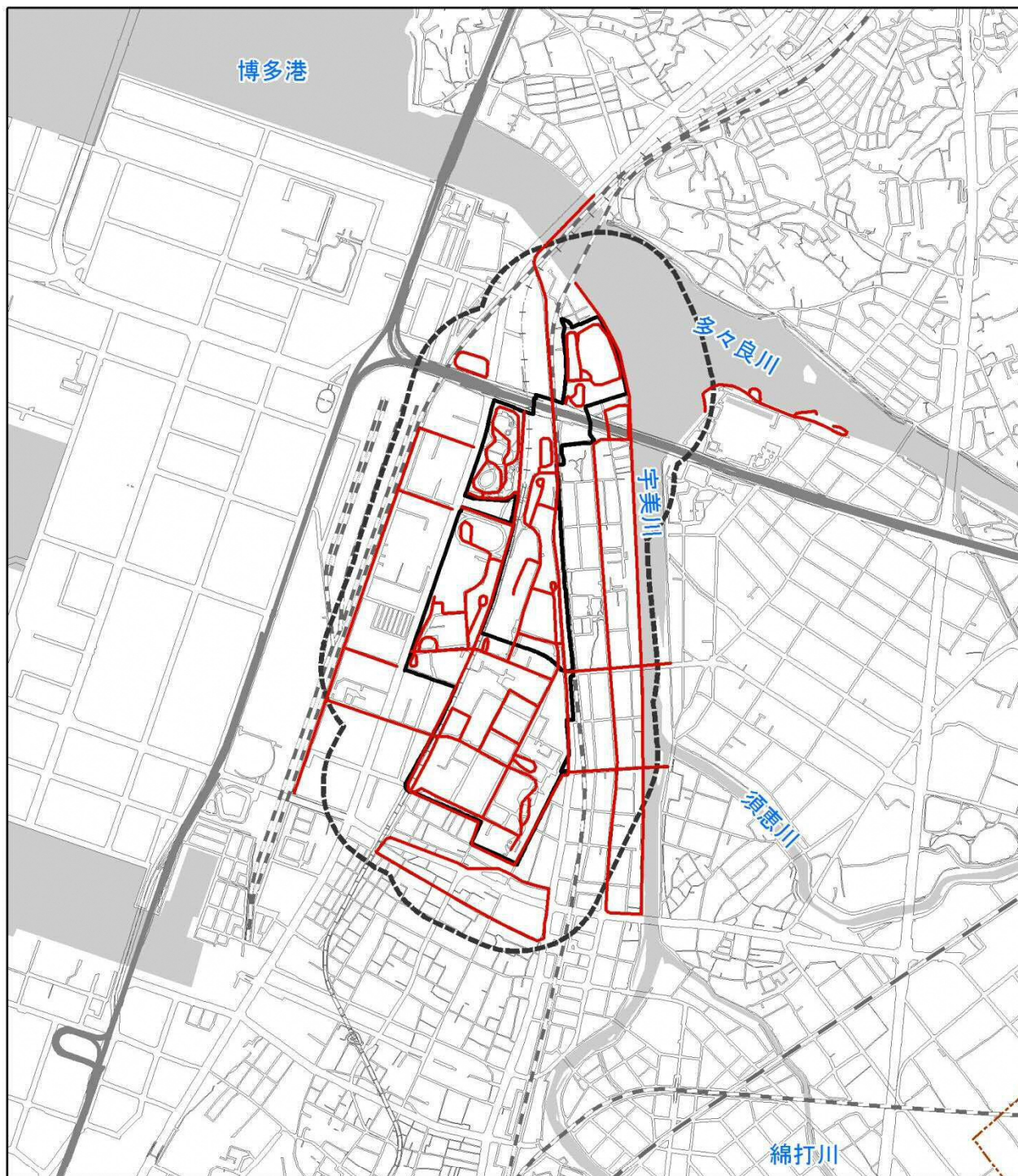
調査地域は図 8.10-4、調査期日は表 8.10-3 に示すとおりである。

なお、植物相調査の調査日について、夏季調査と秋季調査は方法書時点では 9 月と 11 月であったが、現地調査実施年における秋への季節の移行が早い予想となっていたため、11 月では遅いと判断し 9 月に実施した。それに伴い夏季調査をそれよりも前の 8 月に実施した。また、保全樹林については、保全樹林周辺の土壌汚染対策が完了し、指定解除されてから群落組成調査を実施した。

表 8.10-3 調査日

調査項目		調査内容	調査日
植物	植物相	任意踏査	初夏季:平成 29 年 6 月 26~28 日 夏季:平成 29 年 8 月 29~31 日 秋季:平成 29 年 9 月 24~28 日 春季:平成 30 年 5 月 8~10 日
	植生	植生図作成調査、 群落組成調査	秋季:平成 29 年 11 月 6~8 日 春季:令和元年 5 月 8 日(保全樹林の 群落組成調査のみ)





凡 例

- 事業実施区域
- 市区町村界
- 福岡都市高速
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄
- 水域
- 任意踏査

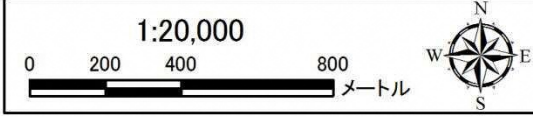


図 8.10-4 植物相調査位置図



#### (4) 調査結果

##### 1) 既存資料調査

事業実施区域及びその周囲の植生の状況は、図 8.10-5 に示すとおり、公園、市街地、緑の多い市街地である。なお、多々良川河口には、ヨシクラスが分布している。

事業実施区域及びその周囲における貴重・希少植物及び群落の確認状況は、表 8.10-4(1)～(2)及び図 8.10-6 に示すとおりである。

事業実施区域及びその周囲において確認されている貴重・希少植物はイソホウキギ、カワヂシャ、コギシギシ、シバナ、ハマサジ、ウラギク、フクドの 7 種であり、貴重・希少植物群落はミミズバイースダジイ群集、ムサシアブミータブノキ群集の 2 群落及びヨシクラスである。

表 8.10-4 (1) 事業実施区域及びその周囲の貴重・希少植物

科	種名	福岡市環境 配慮指針	カテゴリー		
			環境省 RDB	福岡県 RDB	その他の 指定状況
アカザ	イソホウキギ	●		VU	
ゴマノハグサ	カワヂシャ	●	NT	NT	
タデ	コギシギシ	●	VU	VU	
シバナ	シバナ	●	NT	EN	
イソマツ	ハマサジ	●	NT	VU	
キク	ウラギク	●	NT	EN	
	フクド	●	NT	VU	

注) 出典: 福岡市環境配慮指針(改定版)(平成 28 年 9 月)

環境省 RDB: レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-8 植物 1(2015 年 3 月)

レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-9 植物 2(2015 年 2 月)

VU: 絶滅危惧 II 類(絶滅の危険が増大している種)

NT: 準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

福岡県 RDB: 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2011-植物群落・植物・哺乳類・鳥類 - (平成 23 年 11 月)

EN: 絶滅危惧 I B 類( I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)

VU: 絶滅危惧 II 類(絶滅の危険が増大している種)

NT: 準絶滅危惧(現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

その他の指定状況: 天然記念物・種の保存法等の指定状況、専門家の指摘

天然記念物: 「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種

種の保存法: 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において、国内希少野生動植物種、国際希少野生動植物種に該当する種及び亜種

表 8.10-4 (2) 事業実施区域及びその周囲の貴重・希少植物群落

希少植物群落名	カテゴリー	表示群落名(凡例)
スダジイ群落	カテゴリー III	ミミズバイースダジイ群集
タブノキ群落	カテゴリー III	ムサシアブミータブノキ群集
ヨシ群落	カテゴリー III	ヨシクラス

注)

基準: 福岡県レッドデータブック 2011 に掲載された群落の中で福岡市に所在がある群落、及び平成 25 年度自然環境調査(植生)で希少植物群落に対応する凡例の群落が記録されているもの。

カテゴリー I: 緊急に対策必要 緊急に対策を講じなければ群落が壊滅する

カテゴリー II: 対策必要 対策を講じなければ群落の状態が徐々に悪化する

カテゴリー III: 破壊の危惧 現在は保護対策が功を奏しているが、

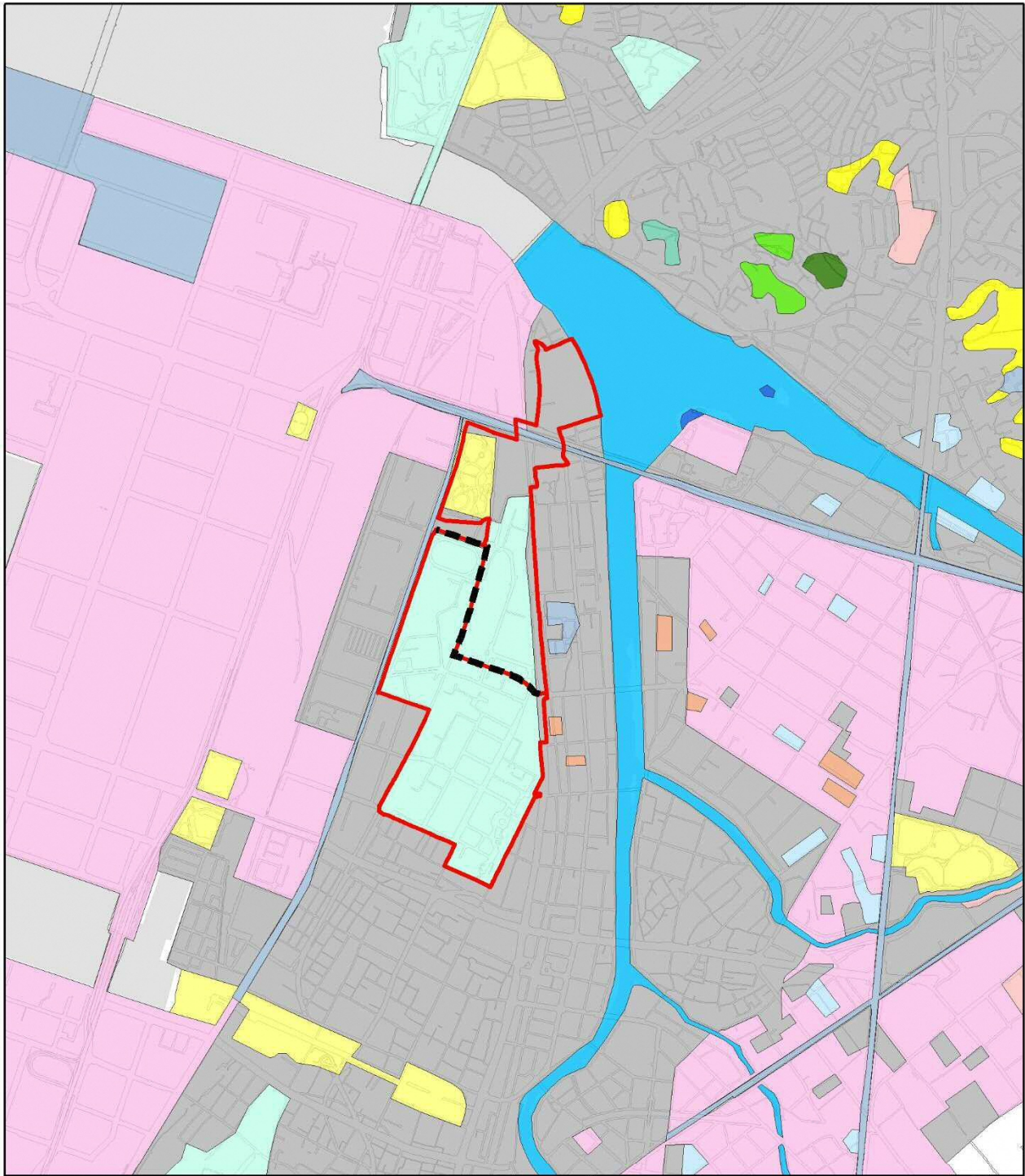
将来は破壊の危惧が大きい

カテゴリー IV: 要注意 当面、新たな保護対策は必要ないが、監視は必要

出典: 福岡県の希少野生動物 福岡県レッドデータブック 2011

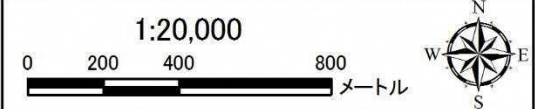
-植物群落・植物・哺乳類・鳥類- (平成 23 年 11 月)

平成 25 年度 自然環境調査(植生)委託(平成 26 年 3 月)



凡 例

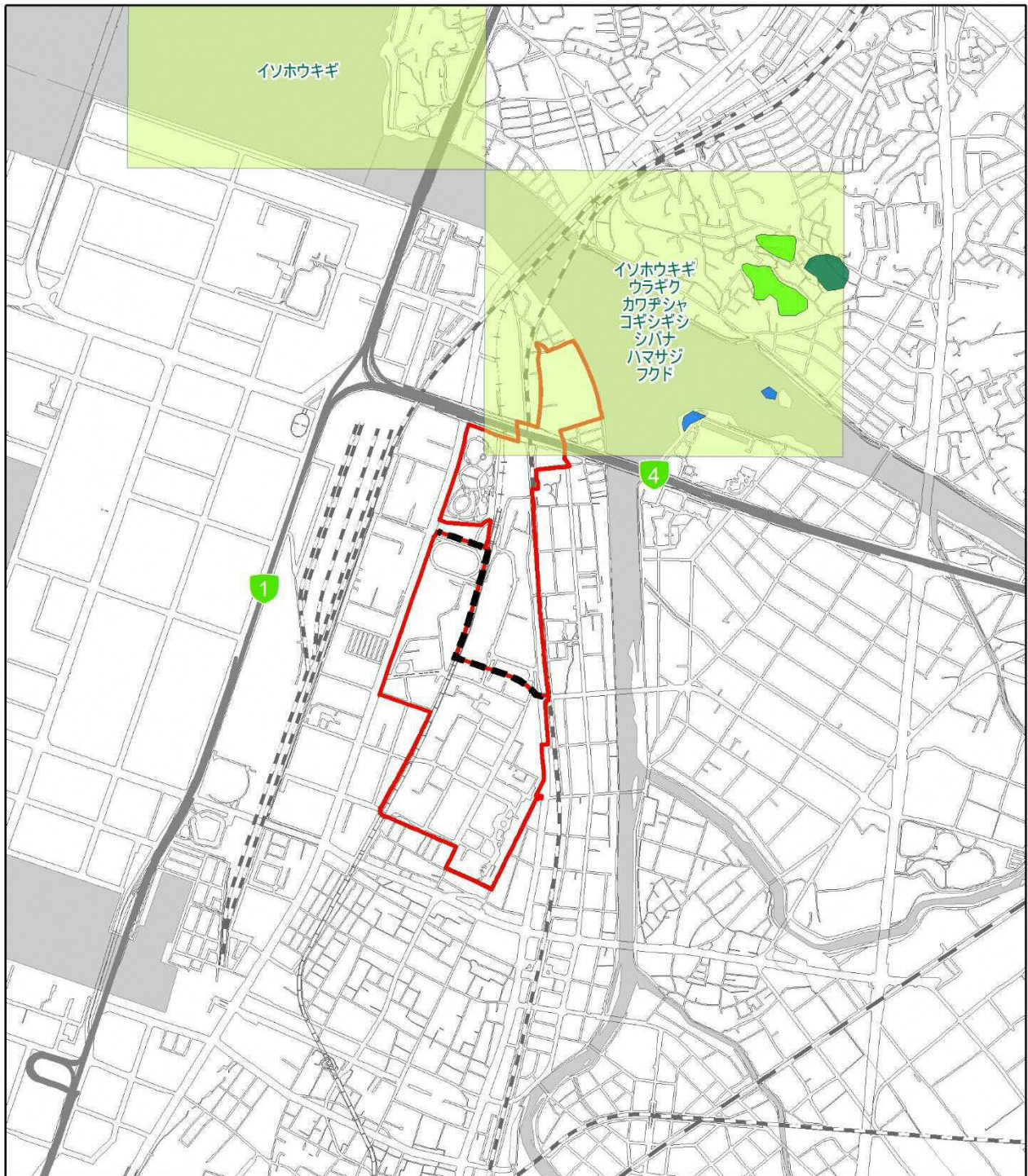
- |  |  |  |   |
|--|--|--|---|
| <span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 10px; height: 10px;"></span> 事業実施区域  | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #006400;"></span> ミズバイ-スタジイ群集   | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #90EE90;"></span> 竹林      | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #FFFF00;"></span> 公園・墓地等 |
| <span style="border-bottom: 1px dashed black; display: inline-block; width: 10px;"></span> 北エリア・南エリア境界 | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #32CD32;"></span> ムサシアブミ-タブノキ群集 | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #FFDAB9;"></span> 畑雑草群落   | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #FFB6C1;"></span> 工場地帯   |
| <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #D3D3D3;"></span> 水域  | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #FFFF00;"></span> シイ-カシ二次林      | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #ADD8E6;"></span> 水田雑草群落  | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #ADD8E6;"></span> 造成地    |
|  | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #FFC0CB;"></span> 路傍・空地雑草群落     | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #A9A9A9;"></span> 市街地     | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #00BFFF;"></span> 開放水域   |
|  | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #0000FF;"></span> ヨシクラス         | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #90EE90;"></span> 緑の多い市街地 | <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: #FFFFFF;"></span> 自然裸地   |



出典:平成 25 年度 自然環境調査(植生)報告書(平成 26 年 3 月 福岡市環境局)

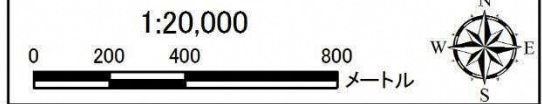
図 8.10-5 現存植生図





凡 例

- 事業実施区域
- 北エリア・南エリア境界
- 水域
- 福岡都市高速
- JR
- 新幹線
- 私鉄
- 地下鉄
- 貴重・希少植物群落
- ミズバイ・スダジイ群集
- ムサシアブミ・タブノキ群集
- ヨシクラス



出典：福岡市環境配慮指針（改定版）（平成 28 年 9 月、福岡市）

図 8.10-6 貴重・希少植物及び群落の確認状況

## 2) 現地調査

### a) 植物相

#### ①確認種

初夏季、夏季、秋季、春季の4季の現地調査により、104科467種が確認された。表8.10-5に確認種の集計を示し、表8.10-6に生育環境別、帰化種、逸出種別の主な確認種を示した。詳細な確認種目録は巻末に資料編に付した。

表 8.10-5 確認種集計

分類群	初夏季		夏季		秋季		春季		合計	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
シダ植物	6	7	6	7	6	7	6	8	8	10
裸子植物			1	1			2	2	2	3
双子葉植物離弁花類	45	127	42	101	40	112	49	148	56	206
双子葉植物合弁花類	21	69	17	56	16	55	19	82	24	124
単子葉植物	12	74	9	63	9	61	12	71	14	124
合計	84	277	75	228	71	235	88	311	104	467

#### ◇確認種概要

約470種の確認は、都市域としては多様性がみられる地域であるといえるが、構成種はシダ類と在来種の樹木が少なく、草本の割合が高い傾向にある。特に、草本には近年の帰化種が多く含まれ、特定外来種ではオオキンケイギクがキャンパス内外で確認されている。

箱崎キャンパスは、1911年（明治44年）に地蔵松原の中に九州帝国大学工学大学として開設され、当時の大学周辺の環境は、福岡市全図（1896年（明治29年））や福岡市実測図（1915年前後（大正初期））によると砂州上に広がるクロマツ林であった。

#### ◇環境別の確認種概要

森林環境をみると、九州大学開設当時から高木ではクロマツ、タブノキ、エノキ、ムクノキ等、低～亜高木ではトベラ、シャリンバイ、ヤブニッケイなど、海岸林や沿海地低木林を構成する在来種が生育する。

植栽樹木群については、タイワンオガタマ、タイサンボク（以上、ミカドアゲハ食草）、マグワ（クワカミキリ、トラフカミキリ依存種）、ニワウルシ（シンジュサン食草）など、在来昆虫種群が食餌植物として利用する植栽木や、ヒトツバタゴ、ナタオレノキなど、構内では移入であるが植物地理的に特徴のある種などがみられ、多くの有用樹種を含んでいる。また、歴史・学術的な背景を持つものとして、マグワ（研究用で品種改良された種）の植栽地が多いことが挙げられ、これに依存する指標性の高い昆虫がみられている。

多様性の高い周辺環境として挙げられるのは、多々良川・宇美川合流付近の塩沼地植生で、開設当時の植生に近いものとみられる。この塩沼地植生の自然性・多様性は、博多湾中でも高く、塩生のヨシ、アイアシなどイネ科草本群落を中心に、シオクグ、シバナ、ハマサジ、ウラギク、イソホウキギなどが見られる。ただし、これらの中で、シバナ、ウラギク、イソホウキギは生育面積（個体数）が限られ、生

育の脆弱性が高いと考えられる。また、塩性湿地後背には、春季にコギシギシが確認された。

多々良川河川堤防側には、多様性は低いが疎林等がみられ、センダン、ハリエンジュ等、草地ではチガヤ、スズメノチャヒキ等がみられた。宇美川左岸の堤防草地には、セイヨウヒキノカサ、マンテマ類、ネビキミヤコグサなどがみられ、外来種の比率が高い乾草原となっていた。

#### ◇帰化種等

調査地の他の特徴には、帰化種や逸出種といった外来種が多いことが挙げられ、帰化種には、アレチギシギシ、ヨツバハコベ、ネビキミヤコグサ、メリケントキンソウ、アカミタンポポなどが確認され、逸出種には、タマシダ、イヌマキ、アキニレ、ハマヒサカキ、ギンネム、シンジュ、トウカエデ、シチヘンゲ、ホタルブクロ等、栽培や構内植栽由来のものがみられた。

逸出種の中には、研究材料に付随して移入されたとみられるデンジソウ属、イトタヌキモや、植栽や土壌搬入に伴う移入とみられるアオイゴケ(自生の可能性あり)などが確認された。前出2種(デンジソウ属、イトタヌキモ)については、栽培容器などで生育が確認されたため、明らかな逸出種であると判断された。

なお、本文中の「塩性」、「塩生」の使い分けは、植物群落は「塩性群落」とし、塩沼地に生育する植物は「塩生植物」とした。

表 8.10-6 環境別/帰化種/逸出種別主な確認種

環境/帰化/逸出	主な確認種
森林環境	高木:クロマツ、タブノキ、エノキ、ムクノキ 低~亜高木:トベラ、シャリンバイ、マサキ、クスドイゲ、ヤブニツケイ
塩沼地植生 (多々良川・宇美川合流付近)	ヨシ、アイアシ、シオクグ、シバナ、ハママツナ、ホソバノハマアカザ、フクド、ハマサジ、ウラギク、イソホウキギ、ハマゼリ、ハマポウ、ハマオモト ※シバナ、ウラギク、イソホウキギは生育面積(個体数)に限られ、生育の脆弱性が高い
疎林 (多々良川河川堤防側)	センダン、ハリエンジュ、ノイバラ、マダケ、メダケ、トキワススキ 草地:チガヤ、スズメノチャヒキ 宇美川左岸堤防草地:セイヨウヒキノカサ、マンテマ類、根引きミヤコグサ
帰化種	アレチギシギシ、クルマバザクロソウ、ヨツバハコベ、トゲミキツネノボタン、ネビキミヤコグサ、ウチワゼニクサ、ハナヤエムグラ、オオバアメリカアサガオ、ヒナキキョウソウ、キヌゲチチコグサ、メリケントキンソウ、アカミタンポポ、ヒゲナガズメノチャヒキ、カタボウシノケグサなど
逸出種	タマシダ、ナギ、イヌマキ、アキニレ、イヌコモチナデシコ、ハマヒサカキ、アツミゲシ、イスノキ、ギンネム、シンジュ、トウカエデ、アオギリ、シチヘンゲ、ホタルブクロ、カッコウアザミ、ナガイモ、デンジソウ属、イトタヌキモ、アオイゴ(自生の可能性あり)



## ②重要な種

重要な種の選定基準により、10科11種が重要な種に選定された。表8.10-7に重要な種を示す。

デンジソウ属及びイトタヌキモは、理学部圃場のビオトープと栽培容器のみでの確認である。

塩性湿地では、ハマボウ、ハマオモト、イソホウキギ、ハマサジ、フクド、ウラギク、シバナが確認された。また、河川中下流域や田園の生育種として、コギシギシが確認された。種の重要性としては、シバナ、ウラギクが高く、イソホウキギも九州内の分布がごく限定的である。

ハマオモト、ハマボウの生育立地は、それぞれ海岸砂丘植生後背地、内湾泥干潟潮上帯付近であるが、安定性が担保される典型的な立地は、調査地ではほとんどみられなくなっている。

確認された重要な種のうちイソホウキギ、カワヂシャ、コギシギシ、シバナ、ハマサジ、ウラギク、フクドの7種は、既存資料調査でも貴重・希少植物として確認されている。

表 8.10-7 重要な種

No.	分類群	科名	種名	環境省	福岡県	福岡市	初夏	夏	秋	春
1	シダ植物	デンジソウ	デンジソウ属	VU	CR	掲載種		○	○	
2	双子葉植物	タデ	コギシギシ	VU	VU	掲載種				○
3	離弁花類	アカザ	イソホウキギ		VU	掲載種			○	○
4		アオイ	ハマボウ		VU	掲載種		○	○	○
5	双子葉植物	イソマツ	ハマサジ	NT	VU	掲載種	○	○	○	○
6	合弁花類	ヒルガオ	アオイゴケ		NT	掲載種	○	○	○	○
7		タヌキモ	イトタヌキモ	VU	CR		○	○		
8		キク	フクド	NT	VU	掲載種	○	○	○	○
9			ウラギク	NT	EN	掲載種	○	○	○	○
10	単子葉植物	ホロムイソウ	シバナ	NT	EN	掲載種		○	○	○
11		ヒガンバナ	ハマオモト		EN	掲載種			○	○
10科11種				7種	11種	10種	5種	8種	9種	9種

注1)環境省は「レッドリスト2018」(環境省、2018年)、福岡県は「福岡県レッドデータブック2011(改訂版)」(福岡県、2011年)、福岡市は「福岡市環境配慮指針(改訂版)」(福岡市環境局環境監理部環境調整課、2018年)を示す。

注2)カテゴリーの記号は以下を示す。

CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類  
 NT:準絶滅危惧、LP:絶滅のおそれのある地域個体群、DD:情報不足  
 掲載種:市内の貴重・希少生物種等のリスト掲載種

注3)現地調査では、その他の重要な種の選定基準である「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)、「福岡県文化財保護条例」(昭和30年福岡県条例第25号)、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)に該当するものは確認されなかった。

注4)デンジソウ属、アオイゴケ、イトタヌキモ(ミカワタヌキモ)は、現地調査において移入由来のものと判断されたため、重要な種として取り扱わない。

### ③保全すべき種

②で抽出された重要な種の内、デンジソウ属、イトタヌキモは、栽培容器や理学部圃場ビオトープのみで生育が確認されたことから、明らかな逸出種であると判断されたため、これら2種は保全すべき種から除外した。アオイゴケは、移入由来であると考えられるが自生の可能性が残るため保全すべき種として取り扱う。

また、植物の保全すべき種を選定する際には、選定の考え方を植物の専門家に相談した。

したがって、保全すべき種は、表 8.10-8 に示すように、8科9種が選定される。保全すべき種の確認位置を図 8.10-7 に示す。

表 8.10-8 保全すべき種

No.	分類群	科名	種名	環境省	福岡県	福岡市	初夏	夏季	秋季	春季
2	双子葉植物	タデ	コギシギシ	VU	VU	掲載種				○
3	離弁花類	アカザ	イソホウキギ		VU	掲載種			○	○
4		アオイ	ハマボウ		VU	掲載種		○	○	○
5	双子葉植物	イソマツ	ハマサジ	NT	VU	掲載種	○	○	○	○
6	合弁花類	ヒルガオ	アオイゴケ		NT	掲載種	○	○	○	○
8		キク	フクド	NT	VU	掲載種	○	○	○	○
9			ウラギク	NT	EN	掲載種	○	○	○	○
10	単子葉植物	ホロムイソウ	シバナ	NT	EN	掲載種		○	○	○
11		ヒガンバナ	ハマオモト		EN	掲載種			○	○
8科9種				5種	9種	9種	4種	6種	8種	9種

注1)環境省は「レッドリスト2018」(環境省、2018年)、福岡県は「福岡県レッドデータブック2011(改訂版)」(福岡県、2011年)、福岡市は「福岡市環境配慮指針(改定版)」(福岡市環境局環境監理部環境調整課、2018年)を示す。

注2)カテゴリーの記号は以下を示す。

CR: 絶滅危惧IA類、EN: 絶滅危惧IB類、VU: 絶滅危惧II類

NT: 準絶滅危惧、LP: 絶滅のおそれのある地域個体群、DD: 情報不足

掲載種: 市内の貴重・希少生物種等のリスト掲載種

注3)現地調査では、その他の重要な種を選定基準である「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)、「福岡県文化財保護条例」(昭和30年福岡県条例第25号)、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)に該当するものは確認されなかった。



コギシギシ

環境省：絶滅危惧 II 類、福岡県：絶滅危惧 II 類、  
福岡市：掲載種

高さ 30～70cm の越年草。根出葉は花時には枯れる。花期は 4～6 月、円錐花序を斜上し、花は輪生する。本州（関東以西）～九州の畑地、ときに海岸に生える。琉球には帰化している。

春季に農学部圃場の草地で 2 個体、多々良川左岸塩性湿地周辺で 5 個体、右岸の堤防縁で 5 個体が確認された。

←写真中央。結実したもの。



イソホウキギ

福岡県：絶滅危惧 II 類、福岡市：掲載種

海岸の砂泥地に生育する一年草。茎は下部より多くの枝を張って広がり、高さ 30～120cm になる。花期は 8～10 月、花は葉腋につき、両生花と雌花がある。本州（東海地方以西）～九州に分布する。

多々良川左岸の塩性湿地で 14 個体が確認された。



ハマボウ

福岡県：絶滅危惧 II 類、福岡市：掲載種

高さ 1～4m になる落葉低木～小高木。小枝、葉の裏面などに黄色をおびた灰色の星状毛を密生する。花期は 7～8 月、花冠径約 5cm の黄色で、内側基部は暗赤色となる花を付ける。本州（関東南部以西）～奄美大島に分布し、海岸砂泥地に生育する。

多々良川と宇美川の合流付近の塩性湿地で 1 個体が確認された。



ハマサジ

環境省：準絶滅危惧、福岡県：絶滅危惧 II 類

福岡市：掲載種

海岸の泥地や砂地に生育する 1 回繁殖型の多年草。満潮時に植物体が水没～やや湿る立地にみられる。葉は根際に群生し、厚くなめらかで、長楕円形へら形。花期は 9～11 月、高さ 20～60cm の花茎を伸ばし、多数の小穂からなる円錐花序をつける。花は白色。本州（三陸海岸以西の太平洋側）～奄美大島に分布する。

多々良川と宇美川の合流付近の塩性湿地で計 164 個体が生育していた。







アオイゴケ

福岡県：準絶滅危惧、福岡市：掲載種

道端や庭に生える小形の多年草。福岡県では沿海地に見られ、集落周辺の道端、石垣の隅などにカーペット上に群生する。近縁種にカリリナアオイゴケがあるほか、本種も近年国内移入が見られる。

箱崎キャンパス構内の植栽周辺に生育していた。特に地蔵の森では広い面積に多数生育していた。



	<p><b>フクド</b>  環境省：準絶滅危惧、福岡県：絶滅危惧 II 類  福岡市：掲載種</p> <p>河口付近の潮間帯の砂泥地に生育する 1 回繁殖型の多年草。満潮時に植物体が水没～やや湿る立地にみられる。全草に強いメロンの香りがある。根出葉は扇形で 2～3 回掌状に深裂する。花期は 9～10 月、径 5～7mm の花を付け、瘦果は長さ 1.2～2mm。本州(近畿地方以西)～九州に分布する。</p> <p>多々良川と宇美川の合流付近の塩性湿地で計 345 個体が生育していた。</p>
	<p><b>ウラギク</b>  環境省：準絶滅危惧、福岡県：絶滅危惧 IB 類  福岡市：掲載種</p> <p>海岸の塩性湿地や河口の汽水域に群生多年草。高さ 25～44cm になり、無毛。葉は披針形、やや肉質で無毛。花期は 8～11 月、多数の頭花をゆるい散房状につける。瘦果は長さ 2.5～3mm。南千島、北海道東部、本州(関東以西の太平洋側)～九州に分布する。</p> <p>多々良川と宇美川の合流付近の塩性湿地ヨシ群落中に計 637 個体、多々良川左岸の塩性湿地で計 130 個体が確認された。</p>
	<p><b>シバナ</b>  環境省：準絶滅危惧、福岡県：絶滅危惧 IB 類  福岡市：掲載種</p> <p>河口や干潟縁の塩性湿地に生育する多年草。葉は長さ 10～40cm、幅 1.5～5mm、花期は 5～10 月、花茎は 15～50cm、総状花序に多数の花を付ける。北海道～九州に分布する。</p> <p>多々良川と宇美川の合流付近の塩性湿地で、ヨシ群落潮間帯上部に小面積で 5 箇所生育していたほか、多々良川右岸の石積みの間に小面積で 1 箇所確認された。</p>
	<p><b>ハマオモト</b>  福岡県：絶滅危惧 IB 類、福岡市：掲載種</p> <p>海岸に生育する多年草。葉は帯状で 30～70cm、やや多肉で光沢がある。花期は 6～9 月、太い花茎の頂きに散形花序をつくり、白色で芳香のある花をつける。果実は球形の蒴果、成熟すると不規則に割れ、表面がコルク質の種子が出る。本州(関東南部以南)～琉球に分布。</p> <p>多々良川左岸の塩性湿地周辺で 5 個体が確認された。生育環境は自生的であったが、種子の由来は、市街地や大学などの植栽個体に由来する可能性がある。</p>



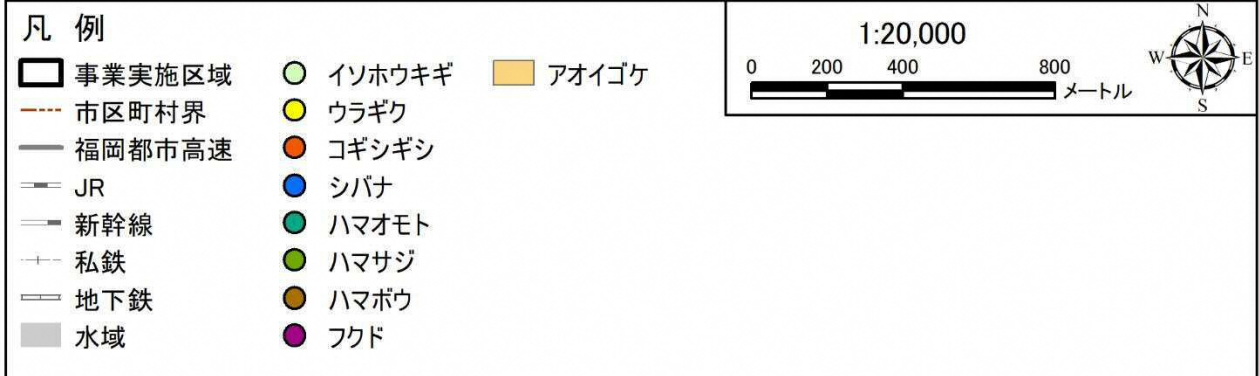
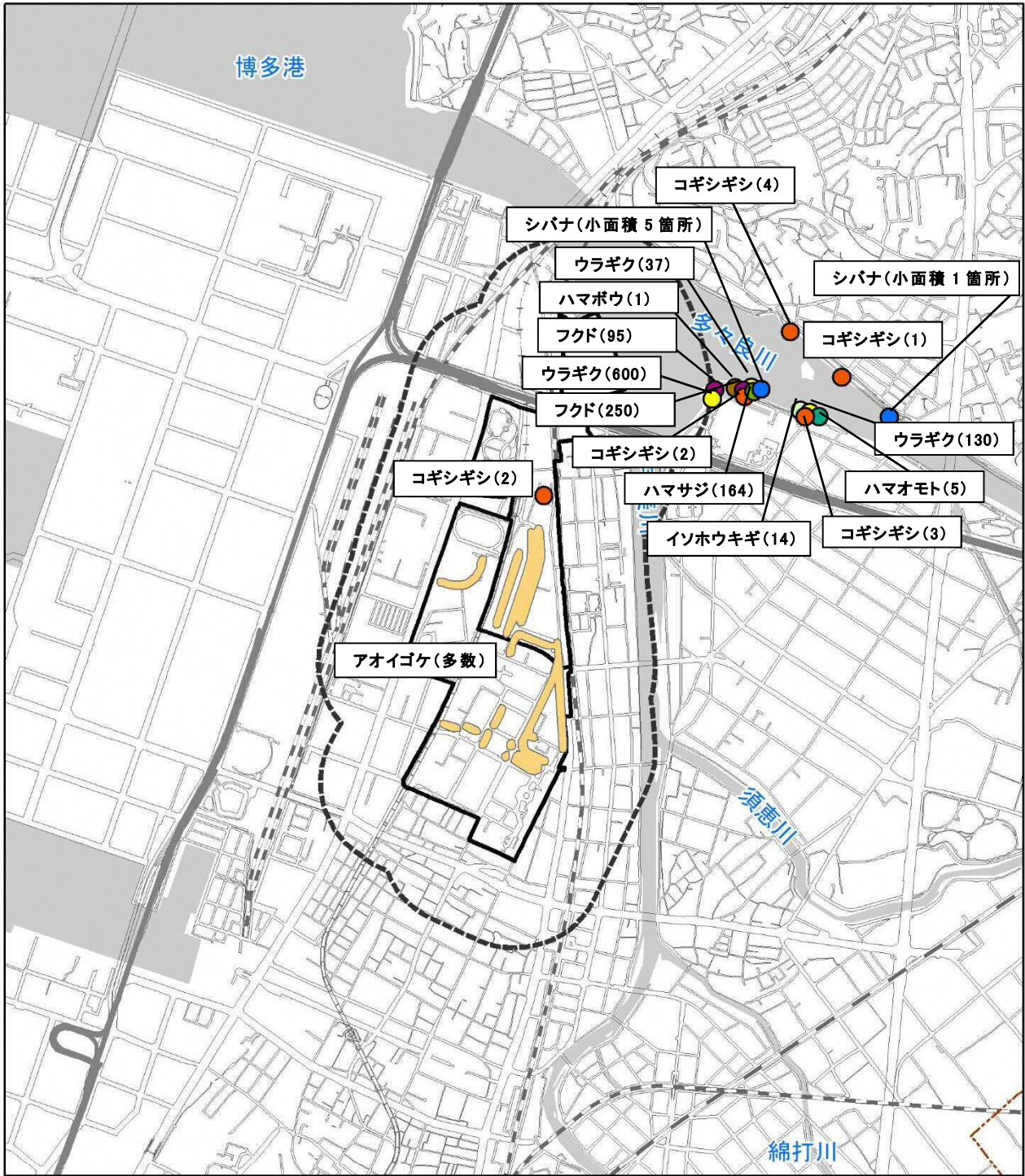


図 8.10-7 保全すべき種確認位置